

作業学習指導案

令和4年10月 指導者 矢島 茉由子 (T1) 他

1 単元名 総合実習「ステキな社会人になろう」

2 単元観

特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）では、第2章の第2節 高等部学習指導要領改訂の要点において、「教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有することが求められる」としている。そして、「それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく、『社会に開かれた教育課程』の実現が重要となること」を示している。また、第5章の第4節 各学科に共通する各教科の第8 職業では、職業科の最終的な目標に向け、「生徒自らが職業に関心をもち、職業に係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通して、知識及び技能を身に付けるとともに、他者と協働しながら課題を解決する過程を通して、将来の職業生活につながる学びが深められるよう学習活動を組み立てることを重要」としている。

本校高等部の生徒は、卒業後の進路先として、一般就労や福祉的就労を目指している。高等部の教育課程では、週に6時間、農耕、紙工、木工、縫製、窯業、軽作業のグループに編制された作業学習を設定し、将来の自立や社会参加に向けた働く力の育成に向けて、生徒の自発性の育成、生徒の実態に応じた職業生活に必要な知識や技能、態度の習得を目指している。しかし、本校の生徒は、日常生活の基盤が福祉型障害児入所施設に限られていることや、社会経験の不十分さにより、作業学習で学んだ知識や技能が断片的になりやすく、日常生活の場面において促されないと挨拶や返事ができなかつたり、自ら進んで準備や片付けに取り組んだりすることなどに課題が見られる。そのため、卒業後の職業生活に生かすことができず、離職が多い。そこで、作業学習において、実践的・体験的な学習活動を充実させることで、働く喜びや仕事のやりがいを実感しながら、就労に向けた学習を進めていく。今年度より、週に6時間ある作業学習のうち2時間を「総合実習」として設定し、作業製品作りに取り組んでいる。総合実習において、産業現場等における実習先と連携し、実習先が求める社会人としての働く姿と生徒の目標や課題を伝え合いながら、系統的・継続的な作業学習を行っていくことが、生徒の働く上で重要な資質・能力をバランスよく育むのに必要なことであると考え。よって、生徒が商品を使用してもらう場面を意識できる利用価値のある作業製品を扱うなど、卒業後の就労場面をより強く意識させることで、職業生活に必要な力を育むとともに、将来の生活にもつなげて考えることができるのではないかと考える。将来の職業生活の充実に向けて、産業現場等における実習や本校における作業種ごとの作業学習、各教科で培った知識や技能を活用しながら、自身の課題解決を図ったり、日常生活を工夫したりするなど、職業生活に必要な力を総合的に身に付けることを目指し「総合実習」と設定した。

そして、振り返り活動において、生徒自身の作業に取り組む姿を客観的に捉えるために、作業の様子を動画で撮影して視聴したり、他者からの評価を受けて課題の改善を重ねていくための評価シートを用いたり、ICTを活用することで、身に付けた力を発揮し、課題を解決しながら働こうとする意欲を育んでいけるようにする。これらのことから、作業学習を通して、職業生活に必要なコミュニケーション力や主体性などの力を身に付け、日常生活における挨拶や準備、片付けなどの場面と結び付けて考え、将来の職業生活につなげようとする生徒を育成したいと考え、本単元を設定した。

3 生徒の実態及び指導方針（男子4名 女子4名 計8名）

本学習集団は、一般就労や就労継続支援A型・B型を目指す1～3学年の生徒で構成している。本

校高等部の生徒は、作業の確実性や巧緻性などの作業能力は高くても、正確な作業を一定時間継続することや、作業目標の達成を意識して積極的に取り組むこと、最後までやり遂げることが難しいことから、作業に取り組む姿勢に課題が見られる。また、コミュニケーション面においては、自ら相手と関わろうとする意識が低く、他者から促されることで挨拶や返事、発言を始めたり、年上の人に対しても友達と接する時のような言葉遣いで話したりするなど、場面に応じた言葉遣いに課題が見られる生徒もいる。

1学期の第1回就業体験当初は、日常的に使う言葉は教師や友達に伝えることができるものの、自分の気持ちや意見を言葉で相手に分かりやすく伝えたり、他者からの質問に答えたりすることが難しい生徒、失敗することへの不安が強く、できる作業のみに取り組み続ける生徒や、他者から指摘をされることが苦手で、分からないことがあっても質問できずに自分なりの方法で作業を進めてしまう生徒がいた。また、自分の行動に自信がもてず、失敗することを避けようとするため、教師への確認作業が多い生徒、今まで自己選択・自己決定する機会が不足していたことから、工程に沿って一人で作業に取り組み続けることが難しい生徒の様子が見られた。そのため、二週間の就業体験を通して、働く上で必要な力に対する実態把握を改めて行いながら、具体的な生徒の行動などを取り上げ、それを解決する経験を積み重ねていくことで、生徒が自身の成長や課題を捉えることができるようにした。そうしたことで、各生徒なりにステキな社会人になることを意識して、達成感をもって働くことができるようになってきた。生徒が自身の成長を実感し、作業に対する意欲を高める上で、振り返り活動における評価を一層充実させる必要があると考えた。生徒が自己の成長や課題に気付くために、評価シートの活用や蓄積を通して、自己の変容に気付いたり、他者の評価や感想によって、自身の成長を見つめ直したりすることが重要である。したがって、日常的な作業学習や総合実習と年に3回行う就業体験を相互に関連付けながら、産業現場等における実習先やT2・T3との連携を図り、段階的・系統的に指導していく必要がある。

そこで、本単元では、生徒が自分で判断したり、生徒同士で伝え合ったりするなど、生徒が主体となって円滑に作業を進めることができるような作業環境を設定する。各自の役割を確実にを行い、作業の効率性や仲間との連帯感を得られることができるようにするとともに、一人一人の生徒の実態に応じた教育的ニーズに合わせて、職業生活に必要な力を身に付ける場面を設定していく。

4 研究との関わり ※省略

5 単元の目標

- (1) 他者との適切な関わり方を理解し、担当する作業内容や依頼などに応じて作業することができる。(知識及び技能)
- (2) 作業における役割を踏まえて、自他の成長や課題、解決策に気づき、表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 作業の見通しをもち、他者と協力して主体的に取り組むことができる。(学びに向かう力、人間性等)

6 単元の評価規準

- (1) 知識・技能
必要な場面や状況に応じて報告や質問をしたり、互いに声を掛け合いながら作業したりするなど、他者との適切な関わり方をしている。
- (2) 思考・判断・表現
自分の役割を確実にを行い、自己や他者の成長や課題に気づき、更なる向上や解決に向けた方策を考え、教師や友達に伝えている。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
作業内容や手順、作業計画を踏まえ、準備や片付けを含んだ一連の活動に見通しをもち、他者と協力して効率よく、自ら作業に取り組んでいる。

7 指導と評価の計画（全18時間）

過程	時間	●ねらい ○学習活動 ☆ ICT活用	知	思	態	◇評価項目<方法（観点）> 〔記〕：記録に残す評価
つかむ	1・2	<p>●2学期の総合実習の見通しをもち、目標を立てる。</p> <p>○全体目標を基に、個人が立てた目標を発表する（☆）。</p> <p>○作業場所、道具や部材の準備をする。</p> <p>○iPadの使い方や評価の仕方を知る（☆）。</p>		○		<p>◇学習の見通しをもち、自身が立てた作業目標を他者に伝えている。</p> <p><評価シート・発言（思）〔記〕・発言></p>
<p>[単元の学習課題]</p> <p>必要な場面で互いに声を掛け合い、担当する作業内容や依頼などに応じて作業することができただろうか？</p>						
追究する	3 ～ 6	<p>●作業内容や作業手順、報告の仕方などを覚える。</p> <p>○iPadを用いて前時の振り返りをし、本時の目標を立てる（☆）。</p> <p>○準備や片付けを含む一連の作業工程に取り組む。</p> <p>○本時の学習を振り返り、感想を発表する（☆）。</p>	○			<p>◇作業内容や作業手順、報告の仕方を理解している。</p> <p><評価シート（知）〔記〕・発言></p>
	7 ～ 16 （本時は9・10）	<p>●作業工程を習熟する。</p> <p>○iPadを用いて前時の振り返りをし、本時の目標を立てる（☆）。</p> <p>○準備や片付けを含む一連の作業工程で、自分の担当する工程を確かめながら、必要に応じて他者と協力して作業に取り組む。</p> <p>○本時の学習を振り返り、感想を発表する（☆）。</p>			○	<p>◇作業開始から終了まで自ら進んで作業に取り組んだり、必要に応じて他者と協力したりしている。</p> <p><評価シート（態）〔記〕・発言></p>
<p>[本時の学習課題]（めあて）</p> <p>検品や納品、部材の補充の際に報告や連絡をしたり、分からないことを自分から質問したりしよう。</p>						
まとめ	17・18	<p>●総合実習を通して自身の成長や課題を振り返り、気付いたことを伝え合う。</p> <p>○iPadを用いて前時の振り返りをし、本時の目標を立てる（☆）。</p> <p>○作業場所、道具や部材の片付けをする。</p> <p>○本時の学習と2学期の総合実習を振り返り、感想を発表する（☆）。</p>		○		<p>◇本時の学習と2学期の総合実習を振り返り、自他の成長や課題に対する解決策を評価シートに記入し、他者に伝えている。</p> <p><評価シート・発言（思）〔記〕・発言></p>

8 本時の展開（9・10/18時間目）

(1) ねらい

生徒が立てた本時の目標に合わせて、ICTによる評価シートや動画を活用した導入や振り返り活動を行うことで、生徒が自ら必要な場面に応じて報告や連絡、相談をするなど、作業を進める上で必要なコミュニケーションを取ることができるようにする。

(2) 準備

iPad 9台（評価シート、動画）、大型テレビ、ホワイトボード、部材、かご、作業中の言葉遣いの一覧表、自己検品用の見本写真

(3) 展開

時間	○学習活動 ・想定する生徒の意識 ☆ ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する生徒への支援 ◇評価項目<方法（観点）>
導入 10分	1 本時のめあてをつかむ。 ○それぞれ作業の準備をする。 ・作業に必要な物を持ってこよう。 ・部材を落とさないように、協力して運ぼう。 ・効率よく作業するためにはどこに置こうかな。 ○iPadの評価シートを用いて前時の作業の取組を振り返り、本時の目標を立てる（☆）。 ・前は分からないことを聞くことができなかつたな。 ・今回は自分から先生やリーダーに質問することを目標に頑張ろう。	○本時の見通しをもち、作業に必要な道具や部材に気付けるよう、作業前の流れや作業内容を提示する。 ○生徒同士で協力しながら作業を進めることができるよう、生徒の中からリーダーを決めておく。 ○部材を丁寧に扱えるよう、「落とさないようにゆっくり運びましょう」と言葉掛けをする。 ○生徒が自ら準備や作業を始めたり、場面に応じた言葉遣いができたりするよう、部材置き場や納品場所、検品所を設置し、作業環境を整える。 ◎前時の作業の取組を振り返り、本時の目標を立てることができるよう、「検品や納品の際には、自分から報告ができましたか」などと具体的な場면을例示しながら問い掛ける。 ◇評価シートに示したコミュニケーション力と伝える力の大項目の中から本時の目標を一つずつ選んで☆を入力している。 <評価シート（知）〔記〕> ○本時の目標が明確になるよう、ホワイトボードに自分が立てた目標を掲示する時間を設ける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>[本時の学習課題]（めあて） 検品や納品、部材の補充の際に報告や連絡をしたり、分からないことを自分から質問したりしよう。</p> </div>		
展開 ① 70分	2 作業に取組、課題を追究する。 ○担当する作業種（照明器具のカバー付けや袋詰めなど）に分かれて、作業製品作りに取り組む。 ・目標を達成できるように頑張ろう。 ・不良品を出さないように、仕上げ	○作業に必要なコミュニケーション力や自ら気付いて動くなどの状況判断力を身に付けることができるよう、検品や計測、袋詰めの役割を生徒に与えることで、生徒同士で主体的にやりとりできるようにする。 ○実際の作業所を想定して働くことができるよう、教師は生徒の様子を見守りながら、共に作業に取

	<p>たら自己検品をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> △個仕上げたら検品所に持っていき、担当者に報告や連絡をしよう。 検品をする際に不良品を見付けたら、相手に伝えよう。 部材などが足りないときには、周りの人に聞いて自分で用意しよう。 <p>○それぞれ作業の片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回、取り出しやすいように考えて置こう。 部材を落とさないように、協力して運ぼう。 効率よくみんなで作業場所をきれいに掃除しよう。 	<p>り組み、作業態度やコミュニケーションの手本を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の言葉で思いを伝えることができるよう、活動中に手が止まっている様子が見られた際には、「どうしましたか」と言葉掛けをする。 ◎授業の終わりに振り返りができるよう、各生徒の目標に関する作業場面では、教師がiPadで作業に取り組む様子を動画で撮影する。 ○必要な場面で報告や連絡ができるよう、作業中の言葉遣いを一覧表にして机上に提示したり、部材の量を調整して用意したりする。 ○必要に応じて、検品所に持っていく前に生徒が自己検品できるよう、完成品の見本の写真を机上に提示し、見本の上に合わせられるようにする。 ○次回、効率よく作業の準備ができるよう、作業の道具や部材を収納する際には「どのように置くとよいですか」と問い掛ける。 ○みんなで協力して効率よく清掃できるよう、サロンの台拭きと消毒に分担する。
<p>展開 ② 15分</p>	<p>3 動画を見て、自分や友達の作業の様子を振り返り、感想を発表する。</p> <p>○個々のiPadで自分や友達の作業に取り組む姿の動画を見る（☆）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が思っていたより、声が小さくて相手に伝わりづらい気がしたな。 次回からは□□さんの報告の仕方を手本にしてみよう。 <p>○評価シートに自分の評価と、友達の良い点や改善点を入力する（☆）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部材が足りないときに、すぐに担当者に報告できたことがよかったな。 □□さんは、検品の際に相手に聞こえるよう大きな声で報告できていたな。 <p>○自分や友達の評価や作業の取組に対する感想を発表する（☆）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の意見を聞いて自分の課題に 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り際には、和やかな雰囲気でき意見を合えるよう、互いの顔が見える場に座るよう伝える。 ◎自身や友達の作業に取り組む様子を確認できるよう、個々のiPadで動画を見て振り返る時間を設定する。 ○自他共に認め合えるよう、個別に「（自分は、あるいはペアの友達は）どのようなところがよかったですか」と問い掛ける。 ○自他の課題に気付けるよう、「（自分は、あるいはペアの友達は）どのようなところに気を付けると更によくなりますか」と問い掛ける。 ◇振り返り活動において、評価シート10項目に対する自身の評価（◎とてもよくできた、○できた、△もう少し）や、友達の評価（よくできたところに○一つ、もっとよくなる場所に★一つ）を入力している。 ◇評価項目ごとに点数化して合計点を出すことで、自己の高まりを実感したり、課題を改善しようとしたりする気持ちをもてるようにする。 <p style="text-align: center;">＜評価シート（思）〔記〕＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の個人目標に対する取組を自他共に確認できるよう、自身の感想を発表し、他者の評価を聞く時間を設定する。

	<p>気付くことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張ったことを認めてもらおうとうれしいな。 ・よくできたことは次も頑張ろう。 ・次回は課題を改善できるように頑張ろう。 	<p>○評価の理由が明確になるよう、発表する際は「～だったので、～を付けました」や、「～できたところがよかったです。～できるともっとよくなると思います」などと、理由を付けて話すよう伝える。</p> <p>●評価の際、自分の思いを言葉で表現することが難しい生徒には、戸惑わずに発表できるよう、「わたしは今日、～を目標にしました。～を付けました。頑張りました」と定型文を提示する。</p> <p>○本時の学びを再確認できるよう、個々の生徒の立てた目標に対してよかったところや課題を「□□さんは、検品依頼を自分から報告できたところがよかったですね」などと教師が具体的な姿として取り上げ、伝える。</p> <p>◎自身の姿を客観的に捉え、成長や課題に気付くことができるよう、一人一人iPadで撮影した動画を大型テレビに映す。</p> <p>○映像に映る作業に取り組む姿を見て課題などを共有したり、認め合ったりできるよう、ペアになった生徒以外にも「今の姿はどうですか」と問い掛ける。</p> <p>◇自身の成長や課題を認識し、次時に生かそうと発言している。</p> <p style="text-align: right;">＜発言（思）＞</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>○次時へのめあてや見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回も目標を達成できるように頑張ろう。 ・作業学習で学んだ挨拶や返事などを日常生活にも生かしてみよう。 	<p>○卒業後を見据えた働く意欲につながるよう、本時の取組を称賛する。</p> <p>◎本時の学びを日常生活と結び付ける意識をもてるよう、具体例を示しながら「本時に学んだことを、日々の挨拶や準備、片付けにも生かして、ステキな社会人になれるといいですね」と言葉掛けをする。</p>

(4) 板書計画 ※写真も可。ICT活用の際の画面も可。

ホワイトボード

作業前の流れ	生徒名	目標	作業内容

サロン配置図

